

- 「1単位生産するのに必要な労働時間」について正確に理解しよう。
- **粗生産物**と**純生産物**の区別と関係をハッキリさせる。
- 以上は復習。これを前提に
- 純生産物が、労働者の生活物資と**剰余生産物**に分割される比率は、どのようにはかったらよいか、考える。
- 資本が、生産を基盤に、**全体として**増殖できる根拠を理解しよう。
- 無数の関係を、小麦と鉄の関係に**抽象化**する方法に慣れよう。

第13講

小幡道昭

2016年7月14日

1/15

2/15

純生産物と剰余生産物：復習

社会的再生産の規模

- 仮定1と2が満たされるとき、「生産技術」が存在するという。
- 2つの仮定のもとで、生産部門の規模を変えると、純生産物のさまざまな組合せ(供給)が実現できる。たとえば
- 小麦の生産規模の2倍にしてみよ。⇒純生産物は小麦  kg, 鉄  kg になる。
- 鉄の生産規模を半分にしてみよ。⇒純生産物は小麦  kg, 鉄  kg になる。

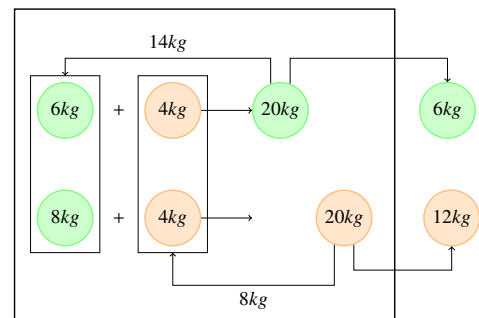
問題1

小麦だけが純生産物としてちょうど10kg生産され、鉄は純生産物として生産されないような、小麦生産と鉄生産の組合せを求めよ。

3/15

純生産物と剰余生産物：復習

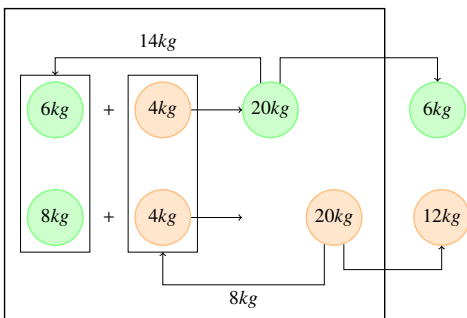
小麦の生産過程を2倍すると...



4/15

純生産物と剰余生産物：復習

鉄の生産過程を半分に縮小すると...



5/15

純生産物と剰余生産物：復習

小麦10kgだけを純生産物にしたいなら...

小麦生産を  $u$  倍、鉄生産を  $v$  倍すると

$$\begin{aligned} \text{小麦 } 6ukg + \text{鉄 } 4vkg &\rightarrow \text{小麦 } 20ukg \\ \text{小麦 } 8vkkg + \text{鉄 } vkkg &\rightarrow \text{鉄 } 20vkkg \end{aligned}$$

$$20u - (6u + 8v) = 10 \quad (1)$$

$$20v - (4u + 4v) = 0 \quad (2)$$

$$u = 5/6, v = 5/24$$

6/15

純生産物と剰余生産物：復習

小麦10kgだけを純生産物にしたいなら...

小麦、鉄の産業規模を

$$u = 5/6, v = 5/24$$

倍にすると、

$$\begin{aligned} \text{小麦 } 5kg + \text{鉄 } 10/3kg &\rightarrow \text{小麦 } 50/3kg \\ \text{小麦 } 5/3kg + \text{鉄 } 5/6kg &\rightarrow \text{鉄 } 25/6kg \end{aligned}$$

集計すると

$$\begin{aligned} \text{小麦の投入} &= 5 + 5/3 = 20/3, \text{産出} = 50/3, \text{純生産} = 10 \\ \text{鉄の投入} &= 10/3 + 5/6 = 25/6, \text{産出} = 25/6, \text{純生産} = 0 \end{aligned}$$

7/15

純生産物と剰余生産物：復習

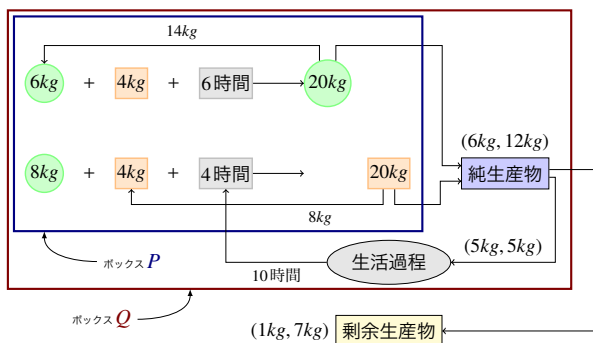
まとめ

- 同じ生産技術を用いていても、各産業のサイズを拡大縮小することで、
- さまざまな比率の純生産物のセットをつくりだすことができる。
- さまざまな商品に対する最終需要が変わっても、産業規模が変化することで、それに合った生産物のセットを供給することができる。
- 同じ生産物をつくる生産技術がたくさんないと、供給量の自由な調整ができないわけではない。
- 同じ生産物をつくる生産技術が変化しないと、供給量の自由な調整ができないわけではない。

8/15

## 補填と取得の例解

p.157 の図II.2.5



9/15

## 補填と取得:まとめ

## 定義 1

粗生産物 - 生産手段の補填分 = 純生産物 : 補填

純生産物 - 労働者の生活物資 = 剰余生産物 : 取得

- 1 内側の青いボックスPは  だけできる客観的な世界
- 2 外側の赤いボックスQは 。ここでは主体間の社会的な力関係が左右する。

## 定理 1

- 「対象化された労働量」  $t$  は、  だけできる。
- にはいっさい影響を受けない。

10/15

## 価値増殖の社会的基盤

- 社会的再生産は剰余生産物をもたらす可能性をもつ。
- その条件は
  - 1 純生産物の形成: 生産技術の確定性: 再生産可能性
  - 2 剰余生産物の形成: 社会的分配: 労働力の本源的弾力性
- 資本は社会的生産を社会的ニーズに適合するように編成し
- 労働者の生活水準を維持しながら
- 剰余生産物を価値増殖の社会的基盤とすることができる。

11/15

## 簡単な例: 小麦の経済

## 問題2

$$\begin{aligned} \text{小麦 } 6_{kg} + \text{労働 } 6_{\text{時間}} &\rightarrow \text{小麦 } 12_{kg} \\ \text{小麦 } 4_{kg} &\rightarrow \text{生活過程} \rightarrow 6_{\text{時間}} \end{aligned}$$

- 1 小麦  $1_{kg}$  を生産するのに必要な労働時間は?
- 2 労働者が生活物資を生産するのに必要な労働時間は?
- 3 小麦の価格が  $1000_{\text{円}/kg}$  だったら労働者の時給は?
- 4 労働者は  $1_{kg}$  を買うのに何時間はたらく必要があるか?
- 5  $1_{kg}$  を「つくるのに必要な労働時間」と「買うのに必要な労働時間」とでは、どっちが大きいか?

12/15

## 簡単な例: 小麦の経済

## 解答2

- 1 小麦  $1_{kg}$  を生産するのに必要な労働時間は? ...  時間
- 2 労働者が生活物資を生産するのに必要な労働時間は? ...  時間
- 3 小麦の価格が  $1000_{\text{円}/kg}$  だったら労働者の時給は? ...
- 4 労働者は  $1_{kg}$  を買うのに何時間はたらく必要があるか? ...
- 5  $1_{kg}$  を「つくるのに必要な労働時間」と「買うのに必要な労働時間」とでは、どっちが大きいか? ...

13/15

## 純生産物の分配

- 何のために「投下労働時間」  $t$  を計算したのか?
- 「純生産物の分配」をはかる基準として役立つからだ。

## 支出した労働量と取得した労働量

- 1 労働者がはたらいた労働時間に対して、生活物資のかたちで手に入れた労働時間がわかる。
- 2 1日何時間はたらいたか? 例えば  $T = 6 + 4 = 10$  時間
- 3 その賃金でいろいろな生活物資が買えた。  $B = (5, 5)$
- 4 その生活物資を生産するに、何時間かかったか?
- 5 「投下労働時間」  $t$  がわかればさまる。
- 6  $t = (7/12, 13/24)$  だった。
- 7  $Bt = (5, 5)(7/12, 13/24) = 135/24 \approx 5.6$  時間
- 8 生活物資の物量  $B$  と、はたらいた時間  $T$  を比較することはできないが、
- 9 生活物資の生産にかかった労働時間  $Bt$  となら、10時間 : 5.6時間 というように比較できる。

14/15

## 価値増殖の根拠

## 定理 2

- 1 社会的再生産で純生産物が形成される。
- 2 純生産物の大きさは  によって確定される。
- 3 労働者の生活過程に  がある。
- 4 だから純生産物  生活物資とすることができる。

☞ SNAをもう一度みておこう。

15/15